

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (13-14)

団体名	(認定) ソーシャルデザインセンター淡路	代表者名	理事長 木田 薫
事業名	これからの島の暮らしをつくる学校(略称島の学校)2022 ～子どもたちとつくるSDGs宣言～		

<事業実施実績>

年月日 定例は「月1回」「毎○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
8回	オンライン	のべ52人	「島の学校」準備会(4月～7月)
7月 9日	S BRICK	28 (11)	<p>第1回島の未来・SDGsを学ぼう！ わたしの中にある探究の“タネ”を見つけよう OLEGOを使ったワークショップ 「SDGsの視点で見えてくるこれからの私」 ファシリテーター：浜田啓久 (SODA コーディネーター) 井治彩花 (愛知淑徳大学交流文化学部 3年) 松本祐輝 (近畿大学経営学部 4年) 富永美佑 (九州大学経済学部 3年)</p> <p>○話題提供 「淡路島の未来… ～淡路島ビジョンに学ぶ～」 ゲストスピーカー：大橋 雅史さん (淡路県民局交流渦潮室交流渦潮課班長)</p> <p>アドバイザー：内藤正明先生 (京都大学名誉教授)</p> <p>○「島の学校の放課後」 ファシリテーター：井治彩花 (愛知淑徳大学交流文化学部 3年) 松本祐輝 (近畿大学経営学部 4年) 富永美佑 (九州大学経済学部 3年)</p>
3回	オンライン		「島の学校」準備会 (7月～8月)
8月 8日	S BRICK	37 (13)	<p>第2回島の先輩と話そう！ わたしの中にある探究の“タネ”を育てよう 第1部「島の先輩」のお話 ゲストスピーカー：北坂 勝さん (北坂養鶏場代表) 福井 啓太さん (株式会社成田専務) 庄司 亜紀子 (兵庫県淡路県民局交流渦潮室)</p> <p>第2部「あなたの探究テーマと地元の先輩をマッチング」 ○ワークショップ ファシリテーター：浜田啓久 (SODA コーディネーター) 井治彩花 (愛知淑徳大学交流文化学部 3年) 松本祐輝 (近畿大学経営学部 4年)</p>

			<p>富永美佑（九州大学経済学部3年）</p> <p>ゲストスピーカー：小林 広英先生 （京都大学大学院地球環境学堂 教授）</p> <p>アドバイザー：内藤正明先生（京都大学名誉教授）</p>
8月27日	洲本市文化体育館2階	41 (14)	<p>第3回島をデータで見よう！ わたしの中にある探究の“タネ”を育てよう</p> <p>第1部「データから見た淡路島の姿」 *ゲストスピーカー：芦谷 恒憲先生 （兵庫県企画部統計課統計分析官、 兵庫県立大学産学連携・研究推進機構特任教授 「まちづくりの統計学」共著者）</p> <p>第2部「高校生ができるデータの集め方・見方・使い方」 *ナビゲーター：芦谷 恒憲先生 ○ワークショップ *ゲスト：岩川 貴志（NPO 法人循環共生社会システム 研究所 理事） *ファシリテーター：浜田 啓久（SODA コーディネーター） （株）成田 インターン生 井治 彩花（愛知淑徳大学交流文化学部3年） 松本 祐輝（近畿大学経営学部4年） 富永 美佑（九州大学経済学部3年） *アドバイザー：内藤正明先生（京都大学名誉教授）</p>
1回	オンライン	7	「島の学校」の総括とフォーラム開催に向けて
2月18日	S BRICK	53 (8)	<p>第2回SDGsフォーラム</p> <p>主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家</p> <p>共催 認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路</p> <p>講師 川中 大輔 氏（シチズンシップ共育企画 代表）</p> <p>対象 淡路島内の高校生（全学年） ※対面のみ</p> <p>ゲスト校：兵庫県立兵庫高校</p>

<効果と成果>

令和3年度は他の助成事業で初めて島内の全部の高校に参画してもらって「第1回高校生によるSDGsフォーラム」を開催した。この取り組みは、高校生はもちろん先生方等に大変高い評価を得てぜひ継続してほしいとの要望があり今年度の事業となった。その際、発表に至るまでの過程で、淡路ビジョンや島の先輩たちに出会うことで地域課題等を知る機会を。さらにデータから見る淡路島という企画を加え「島の学校」として提供した。この3回に亘る講座に多くの高校生が参加し、特に島の先輩のお話は、興味深く聞き入っていた。また高校の先生も多数参加されこの事業への関心を高めることができた。さらに今回は、淡路ラボやインターン生を受け入れている（株）成田との連携なども図られ、事業の企画から大学生が参画し、講座の中でも交流の場をうまく作り出してくれた。こうした地域内でのとても良い連携を作り出すことができたことも大きな成果といえる。発表の場は、昨年度から別事業で企画しており2月18日に島内の校長会等の支援もあり約50人が参加。島外から兵庫高校をゲストに迎え交流を図ったことも好評だった。来年度の開催も決まった。

<今後の展望>

高校生が地域に関心を持ち、さらに自ら課題を見つけ行動できるような高校生が増えてくれることを目指してこれからの事業の在り方を話し合っている。今後、発表数が増えてくるようであれば、審査をして、賞を送れるようなフォーラムになればと考えている。さらに島外の高校にも声をかけて交流の場を設けるなどの工夫もしていけたらと考えている。また、淡路島で研究している大学生との連携も検討したい。こうした取り組みが、高校生の地域での帰属意識を高め、ふるさと愛が深まり、若者の流出による人口減少に少しは、歯止めがかかることを願っている。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	350,000
自己資金	34,615
合計	384,615

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金 (円)
直接 経費	講師謝金	180,000	180,000
	旅費交通費	74,528	74,528
	消耗品費	34,217	22,642
	その他 (印刷費、会場費等)	72,830	72,830
	小 計	361,575	350,000
間接経費 (一般管理費)		23,040	0
合 計		384,615	350,000